

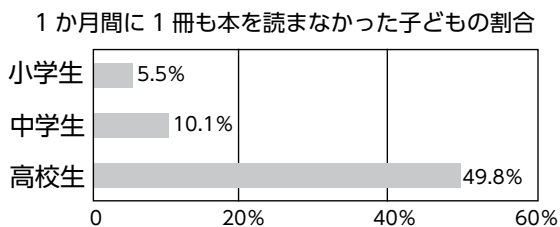


読書のすすめ～本を介したコミュニケーションを～

成長するにつれて読書離れが進む傾向

読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、そして、創造力を豊かにし、人生をより深く生きていくための力となります。

しかし、中学生になると本を読まない割合は高くなります。その要因としては、スマートフォンなどの普及や、それに伴うSNSなどの利用拡大、課外活動の多忙さなど、子どもの生活環境の変化が考えられます。



【第66回学校読書調査】より
(全国学校図書館協議会・毎日新聞社 2021年調査)

毎月第1日曜日は「ファミリー読書の日」

子どもは中学生になると、大人に近い視点を持つようになります。だからこそ、子どもと同じ本を読んだり、感想や作者について語り合ったりすることは、子どもとのコミュニケーションを図ることにつながります。また、子ども自身が自分の考えを形成する機会にもなります。

神奈川県では毎月第1日曜日を「ファミリー読書の日」としています。ぜひ、読書を通して家族のコミュニケーションを深めてください。

また、そのためにも、保護者自身が楽しみながら読書をする時間を大切にしてください。

「かながわ 子どものためのブックリスト」

中学生等が推薦した「友だちにすすめたい好きな本」、保護者の方々が中学生等にすすめたい「子どもに読んでほしい本」などを掲載したブックリストです。ご活用ください。



<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/gt2/h29booklist.html>

家庭における5つの心掛け

生活のリズムをつくる

中学生になると、部活動や勉強などで忙しくなって夜更かしをするなど、生活のリズムを崩してしまふことがあります。

子どもが基本的な生活習慣を確立し、生活のリズムをつくるためには、保護者のサポートが重要です。

子どもをトラブルから守る

携帯電話やスマートフォンが普及し、いつでも家族と連絡が取れるという安心感により、かえって子どもの夜間外出に対する危険性を感じにくくなっています。

普段から子どもとコミュニケーションを密にとるなど、子どもを危険やトラブルから守る取組みが求められます。

子どもの話を聴く

保護者の一方的な言葉の投げかけではなく、話し合う機会をもち、子どもの話を聴くことが大切です。

また、会話の中から子どもの思いや悩みをつかみ、状況に応じたアドバイスや親の考えを伝えることも大切です。

感動を共有する

学校行事やPTA活動等に参加して、子どもと一緒に感動を共有することで、子どもや学校への理解が深まり、お互いの信頼関係を築くことができます。

また、子どもが夢に向かって歩いていくことを応援することも大切です。

「ホッ」とできる居場所にする

家庭は、学校から帰った子どもが「ホッ」とできる居場所であることが必要です。

子どもの反抗的な言動に、動揺したり押さえつけたりせず、子どもの心の奥に秘められた気持ちをくみ取り、温かく見守る心のゆとりをもつことが大切です。

